あさいろ

あさご景観まちづくり情報誌

Vol.2

CONTENTS

特集 1 朝来の魅力を活かした景観まちづくりへ！ ―― 1

特集 2 景観まちづくりインタビュー

～じろはったんのふるさと 大蔵地域～ ―― 3

シリーズ「甦」rehabilitate Vol.1

～甦る古民家 築85年 農家民宿「まるつね」～ ―― 6

あさご・景観まちづくり掲示板 ―― 7

特集 1

朝来の魅力を活かした景観まちづくりへ！

景観計画策定委員会の会議風景

現在、朝来市の魅力的な景観を活かしたまちづくりを進めるための「景観計画」と「景観条例」をつくる作業を平成24年3月から進めており、平成25年度前半からスタートさせる予定です。

この間、市民の皆様や各種団体の代表者、学識経験者、行政などで組織する「景観計画策定委員会」で熱心に議論を進めて頂きましたが、計画に盛り込まれた内容以外にも、キラリと光るたくさんのご意見やご提案を頂きました。今後の景観まちづくりに取り組む上で参考になる貴重なものばかりでしたので、皆さんに紹介したいと思います。

なお、景観計画のパンフレットを皆様にお届けする予定ですので、計画の概要はそちらをご参照ください。

あさご景観まちづくり・名言集
「どんな景観をめざしたらええんかな？」

“おいしい”景観

朝来の空気はおいしいと感じる。そんな自然の豊かさ、多様性を守っていきたい。

さのう高原

“興味を持ってもらえる”景観

人が来てくれ、お金も落としてもらえると、資源が磨かれていく。時間を過ごしてくれる、とどまって見てもらえるように頑張らないけん。

山東夏まつり

“市民が主役”の景観まちづくり

こうなればしめたもの。重い言葉でもあるけど、本当にそうなれば朝来はもっともっと良いまちになる。

餅花づくり

「あさごブランド」

景観に関する資源、活動が単発のものではなく、それぞれがつながり、一つの価値あるものとして発信しなければならない。それがブランドになる。

“住んで良し”の景観

住みよい、暮らしやすいというのも景観の魅力だと思うし、人が住んでいるところでないと、魅力も生まれてこない。

雪の中で遊ぶ子どもたち

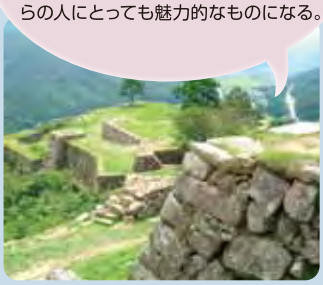
景観は、“誇り”“豊かさ”をもたらす

良い景観であることで、自分たちのまちを誇りに思える。そんなまちに住んでいるというのは実はとても豊かなこと。快適な暮らしとも両立を考えていくことはできる。

山王神社のお祭り

“自慢できる”景観

誰もが良さを知っている景観は、市民が自慢できる。また、市民だけでなく外からの人にとっても魅力的なものになる。


竹田城跡

景観はいろんなものの積み重ね

自然や歴史や文化や暮らし、いろんなものが積み重なって、景観はできている。

景観まちづくり、こんなことできたらええなぁ…

では、朝来らしい景観を活かしたまちづくりって、一体どんなことなんでしょう。

景観計画策定委員会では、委員自身の経験を踏まえて、「こんなことができたらええなぁ」というお話がいくつか出されました。おっしゃっていただいたことが少しずつ実現していけるよう、協働で取り組んでいきたいと思います。

知る

自分たちが地域を知らないと。

地域でお宝マップづくりをしたが、まだまだ知らないことが多い。自分たちが知らないと、人に伝えることもできない。

奥銀谷でのまちなみ再発見ワークショップ

普段暮らしていて当たり前のもの、気づかないものを、外の人に見つけてもらう。

アマチュアカメラマンに集落で絵になる風景を探してもらったらどうか。住民とは違ったユニークな目線で捉えると、地域も光って見えるのでは。

昔の姿はどんなんやったか？

昔の写真を引っ張り出してきて、「あぁ、こんなんやったなぁ」と話し合った。こんなことを手がかりにして、地域がどうなったらいいかを話し合っても良いと思う。

生野ルートダルジャン芸術祭での昔の写真展示

動く

「見てもらえる」と思うと、「なんかせなあかん」という気になる。

外から来てくれた人に見てもらうと思うと、「きれいにせんな」という意識がはたらく。それも大事な景観まちづくりではないか。

集落全部は大変かもしらんけど、見えるところだけでも掃除をしたり、花を手入れしたりすると違うと思う。

河川の清掃

人の“つながり”をつくる。

大阪や神戸の方から、若者が米づくりに参加してもらうこともある。

ここでお金が稼げたり、交流ができたり…そんな体験が生み出せれば、また来てくれるんじゃないか。われわれも見方を広げることができるし。

あさごオープンガーデン

和田山の軽トラ市

空き家を資源として活用する。

なかなか貸したがらない人も多いけど、そういった方にも粘り強く説得して、うまく地域の資源として新しい人に使ってもらうようなことをやっている。

空き家を上手く活用すれば、地域に定住してくれる人が現れ、それが活性化につながったりもする。

民家を改装した店舗

特集 2

景観まちづくりインタビュー

～じろはったんのふるさと 大蔵地域～

朝来市では、自分たちのまちの身近な景観に着目して、大事にする活動を進めている市民の方々がおられます。今回は、大蔵地域にスポットをあてて、地域の身近なまちの素晴らしさやそれを活かすヒントなどをお伺いしました。

【語り手】森下 恒夫さん
朝来市連合区長会
大蔵地域自治協議会

【聞き手】小島 修一郎さん
一級建築士
朝来市景観計画策定委員

大蔵地域ってこんな村

小島　はじめにまず大蔵地域のご紹介をいただけますでしょうか。

森下　大蔵地域は、南北は、東西に横断する円山川や山陰街道と大倉部山（おおくらべさん）に挟まれた部分、東西は和田山駅と養父駅の間になる東西に細長い地域です。

地域の真ん中あたりにトンネルがあって、土田（はんだ）から東の地区と、宮田から西地区と、地形的に分けられ、東西で様子が随分違っています。東側の方は駅南の区画整理事業がされたり、国道9号沿いにはいろんな店舗が建ったりして、都市的な要素を持っています。一方西側の方については、昔ながらの農村風景を維持しているというか、取り残されておるというか（笑）そんな状況です。

小島　大蔵と言う名前が地名につけられたということは、この地域が豊かな穀倉地帯と言う印象があり、豊かな村ではなかったのかなと思うのですが、いかがでしょうか。

森下　いや決してそうではなかったと思うんです（笑）。まあ大蔵と言う地名には諸説があってですね、大倉部山という大蔵を象徴する山があるわけですから、この大倉部山という山の名前があって大蔵になったというような説もあるし、このあたりには円山川を利用する船の船着き場があって、そこで米などの荷の積卸し、保存のための蔵がたくさんあったんではないかという説もあります。

じろはったん村のむらづくり

小島　大蔵といえば、「じろはったん」をお書きになられた児童文学作家の森はなさんが生まれて成長されたまちですが、その時代というのは今から100年ほど前だと思うんです。その頃はもっと今とは風景が違って、自然が豊かで、古い家が残ってたりしたんでしょうね。「じろはったん」はそういう風景の中で物語が生まれてきたということでしょうか。

森下　森はなさんの時代はそれほど楽しみというのがなくてですね、宮田という地区に旅館がありましてね、そこに富山の薬売りや大神楽が来て泊まったり、芝居の一座が来て、米の収穫が終わった田んぼを利用して、芝居小屋を建てて、農繁期の済んだ近隣の人が寄ってきて芝居を楽しんだりしていたそうです。私も公民館で芝居を見た記憶があります。

小島　秋には、盛大に人が集まったり、屋台が出たりとかいったことが、一番楽しみだったんでしょうかね。

森下　そうでしょうね。森はなさんにしてみたらね、村の人以外の人と出会う機会いうものがそんなときにしかないわけで、そういった村の人以外の人に接することによって、珍しい話を聞いたり、色んな夢が膨らんだりしたんでしょうね。小学校の先生が、たまたま文学青年で、その人の影響もあって、文学の世界に興味がものすごく膨らみ、この地でその世界観が育まれたんでしょうね。

小島　大蔵地域では「じろはったん村のむらづくり計画」というものを打ち出されていますが、「じろはったん」をどのように村づくりに活かしていこうということなんでしょうか。

森下　それは、「じろはったん」という物語の中で表現されておる村の人の優しさであったり、近隣との農作業の助け合いとかですね。あるいはまた、「じろはったん」のような障害を持った人に対してもね、個性を持った人として受け入れて分け隔てなく一緒に暮らしていたというような「じろはったん」で表現されている世界観、その根底にある人の優しさを中心に据えた村づくりをしようということです。

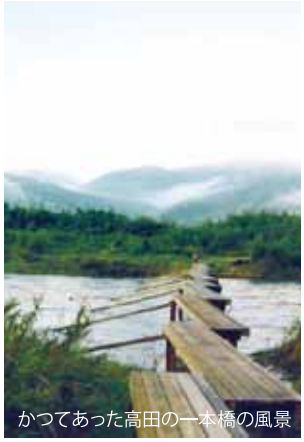
　村づくりというと農業に力を入れるとか、新しい産業を興そうだとか、そういうことで成功されておる村もあるんですが、我々はあくまでも、決して形にはならんけども、「じろはったん」の時代の気持ちで暮らして行こうと、そういう精神的なことを中心に据えて村づくりをしようとしているわけです。

大蔵地域自治協議会が作成したお宝マップ

自分たちのむらを身近なところから見直しませんか

小島　「じろはったん村のむらづくり」というと、心の部分のお話になるのかなと思うのですが、そのベースになっているのは、村とか山とか、農地、田んぼの部分の風景ですよね。地域自治協議会のホームページを見せていただきますと、お宝マップづくりや高田の一本橋の由来などを紹介する活動もなされていますが、それは精神的な部分だけではなく、目に見える部分についても大事にしていかないといけないなというところから来たんでしょうか。そのあたりのお話をお聞かせください。

森下　最近の生活スタイルでは、普段の生活の中にある身近なものに見向きもしない、外ばっかり気持ちが向いてしまう、そういったことの現れが地元に定着する若者が減ってきたことにも繋がっていると思うんです。田舎は住むに値しないつまらん場所だという風なことになってしまっとるということがすごく残念なことです。そこで、決して田舎がつまらん所じゃない、自分の考え方、感じ方によって十分にエンジョイのできる場所だということをもう一度考えてみる必要があると思うんです。


かつてあった高田の一本橋の風景

そういった思いで、身の回りにどういったお宝があるのかということを、まず大蔵に現在暮らしとる人間が再確認しようというようなことで作ったのがお宝マップです。今後大事にして守っていかなあかんもんの確認にもつながるわけで、それで村を見つめ直してみようということをしました。

決して規模はそんな大きなものじゃないけれども、歴史があってお宝があるので、村を見つめ直し、普段忘れておることをもう一回思い出して、更に普段から触れる、親しむ、そういうことで自分の暮らしが少しでも豊かに暮らせたらね、いいんじゃないかなという考え方です。

それから、一本橋の話も、大変僕らも思い出があるけども、風情のあるええ橋だったんですが、残念なことに平成21年の台風9号で流されてしまって、復元が出来てないんです。復元するのには、大変な金がかかるという事で長い事ありがとうという橋に感謝する式典をしましたが、これは、素晴らしいお宝なんでぜひ、復元をお願いしたいと考えています。

未来へ受け継ぐべき村への思い

森下　私はこの歳になって、大蔵のような地域は、物事の利便性や効率だけで考えると、存在意義が無くなってしまうわけだけど、何百年も続いて来とる村なんだから、それを守って、後々も村が在り続けるということが大事なことやと思うんです。

小島　本当にそうですね。地域には、古い庄屋さんや田舎の家というものがやっぱりその地域の顔なんですよね。故郷を大事にしたいという思いとともに建物も出来るだけたくさんのものが残っていって、出来ればもう一歩進んで活用され、村づくりに繋がっていって、その村に住む人が暖かく生きていける、そういう繋がりへと発展していけばいいなと思っています。

今日は貴重なお話をお聞かせいただき、身近なところだけども良いものがあるという事を知り、それをちゃんと大事にしていかなあかんなあということを感じさせていただきました。

ありがとうございました。

映像「朝来スケッチ」完成間近！

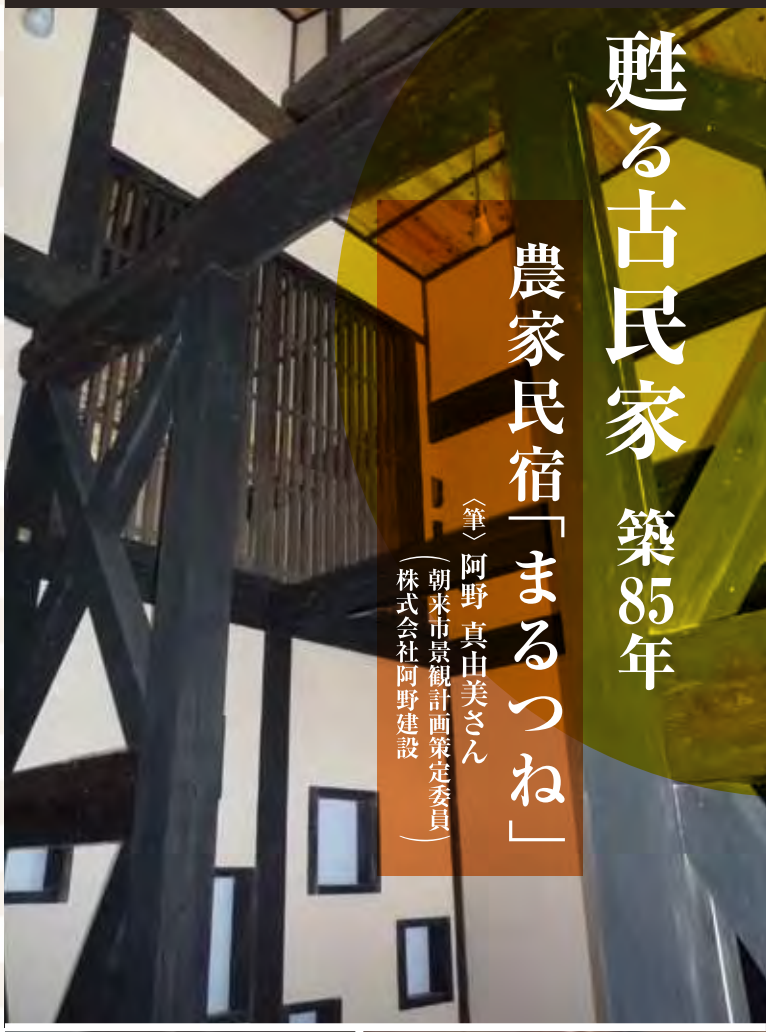
朝来市和田山町出身の映像作家藤原次郎さんによる、映像を通して朝来の素晴らしさを伝える「朝来スケッチ」の完成に向けて最後の追い込みに入っています。

朝来の良さを再認識していただける作品となっています。是非皆さんにもご覧頂きたいと思っています。

甦る古民家 築85年

農家民宿「まるつね」

〈筆〉阿野 真由美さん
（朝来市景観計画策定委員）
（株式会社阿野建設）



農家民宿「まるつね」黒田夫妻と出会ったのは、平成23年12月でした。いなか暮らし塾塾頭西垣氏の紹介で、生野町黒川にある、今は使われていない築85年の奥様の実家をなんとか活用したいとの依頼でした。

ご夫妻の「黒川のすばらしい自然をたくさんの方に知ってもらいたい」という熱い思いの裏にはこの家の主、奥様のお父様である故 常二氏の「都会の人に農業や田舎体験をしてもらいたかった」という夢を叶える意味もあったようです。

打合せを重ねる度に感じるご夫妻の熱い思いになんとか応えたいと思っていた所、兵庫県古民家再生促進支援事業として認めて頂けることになりました。

「活かせるものは徹底して活かす」「大切なのは直しすぎないこと」を心がけ、平成23年12月のスタートから1年後、平成24年12月に完成しました。

使わなくなって、放っておけば朽ち果ててしまう家が、人が集い、笑い声が聞こえる家に甦りました。止まっていた時計が、人の手でネジが巻かれ動き出すように、眠っていた築85年の家が、たくさんの人の手を借りて息を吹き返しました。そのお手伝いをさせて頂けたことをうれしく思います。

たくさんの方々のお力添えに感謝いたします。

今回、景観計画策定委員の阿野真由美さんに、景観や町並みなどを活かした取り組みの事例紹介をしていただきました。

後日談

先日、黒田ご夫妻からうれしい連絡がありました。オープン前から早速「オオサンショウウオの写真を撮りたい」「蛍の時期に宿泊したい」「結婚披露宴を兼ねて宿泊したい」等、予約が入っているそうです。

あさご・景観まちづくり 掲示板

景観写真コンクール入賞作品決定！

『朝来市の魅力、再発見！』をテーマに、平成24年10～11月にかけて募集した「景観写真コンクール」に、多数応募頂きありがとうございました。

審査を経て、以下の応募作品を選定しました。

◆ 大 賞

黄金色の煌（かがや）き
（撮影場所：和田山町三波）
前平 照雄さん（豊岡市）

◆ 準 大 賞

石炭車の宿舎No.2
（撮影場所：和田山駅）
市川 たず子さん（朝来市）

巨大な廃墟
（撮影場所：神子畑）
船越 利昭さん（豊岡市）

夜の日時計
（撮影場所：和田山町玉置）
西村 弥生さん（朝来市）

◆ 特 別 賞

古代を偲ぶ（和田山町筒江）
安達 初雄さん（朝来市）

散歩道（和田山町枚田岡）
西村 良平さん（朝来市）

実り（竹田城跡）
加藤 雅彦さん（伊勢市）

朝来市山東町与布土にて　平成24年 春

街かどスナップ vol.2

暖かな陽気に誘われて、満開の桜の中をみんなでお散歩。
寒い冬があるからこそ、春の訪れが待ち遠しいですよね。

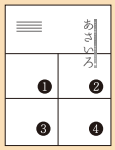
全国こども絵画選抜展 ふるさと景観賞を選定！

朝来市の魅力ある景観を子どもたちの目をとおして見つめ、朝来市の景観の魅力や景観の大切さへの理解を深めることを目的に、第８回全国こども絵画選抜展2012の応募作品の中から、「ふるさと景観賞」として８点選定しました！

「竹田城跡」	鵤 大智さん	竹田小６年
「あじさい」	守谷 季葉さん	東河小６年
「光福寺」	上仲 葉音さん	糸井小６年
「ふるさとの風景」	内野 優さん	梁瀬中２年
「トロッコ道」	小原 一成さん	生野中２年
「シルバー生野」	田島 彩さん	生野中２年
「風景」	多田 光冬さん	和田山中2年
「家の近くの古い車庫」	山下 翔さん	和田山中1年

編集後記

「あさいろ」も第2号を発行することができました。今回は、景観計画の策定に携わっている市民の方に編集に加わって頂き、インタビューを行って頂いたり、活動事例を紹介頂いたりしました。おかげでより親しみやすく面白い紙面になったのではないか、と思っています。ご協力頂き、本当にありがとうございました。（A）



【表紙の写真】
❶春・ヒメハナ公園 ❷夏・和田山地蔵祭り
❸秋・田園（石田） ❹冬・生野イルミネーションロード

朝来市 都市環境部 都市開発課 〒669-5292 朝来市和田山町東谷213-1 TEL079-672-6127 FAX079-672-4041
協力：㈱地域計画建築研究所・大阪事務所、（株）バード・デザインハウス　朝都25.3　3,000